

「輝け！三ツ星祭」

中川根中学校3年 栗田佳樹さん

僕たち生徒会本部は、中中の年に一度の祭典「三ツ星祭」に向けて、夏休み前から準備を重ねてきました。3年生の本部役員は三ツ星祭を最後に任期を終え、2年生にバトンタッチするので、特に力が入りました。

まず1学期に、各委員長や各学級の代表委員と話し合い、スローガンを決め、全校が種目を決めるなど準備を始めました。縦割り班で、赤・青黄・緑の4色の組を組織し、学年を超えた繋がりを目指しました。

2学期に入ると、各色の団長に選ばれた2年生を中心に種目の練習に入りました。



盛り上がった三ツ星祭「スポーツの部」

小・中学校レポーター

中川根中学校 3年
栗田佳樹さん



全ての生徒が自分の組の優勝を目標に懸命に取り組みました。

僕たちもプログラムづくりや寸劇の練習、進行表づくりと大忙しでした。しかし、行事の成功を信じていたので、かえって楽しいくらいでした。

当日は、2年生の長縄100回の記録が出たり、例年になくたくさんの地域の人が見学し参加して、生徒と同じように一喜一憂していたりして、とても心に残りました。

スポーツの部は大成功し、学校の一体感が増して、本当に良かったです。

私が最も感銘を受けたのは、みなさんの「もてなしの心」です

川根高校 ALTアマンダ・ショーさん

私はこれまで日本のことを考えることはほとんどありませんでした。テレビで古い日本映画を見たことや、歴史の授業で習った将軍とか侍のほんやりした認識しか持っていませんでした。大学に入学し美術史を専攻、西洋美術以外を勉強していく中で、書道、墨絵、浮世絵の難解さや建築や目に見える美の奥にある幾重もの意味を学んでいくにつれ、私は完全に日本の美術と習慣に魅せられてしまいました。日本の美術の研究を追究するために、私はそのような傑作を創造した国民のことを知りたくなりました。

今、私は日本にいて、この美しくて特異な文化の理解を深めようという気持ちで一杯です。大の読書好きであり、ものを書くのも好きなため、言葉、特に英語への愛着が日本で教えたという私の願望に火をつけてくれました。

当然、生活の場が日本へ移ることがそんなに楽なものとは思っていませんでしたが、私が直面した多くの試練は、驚きと予想外の連続でした。食料品店へ行くだけでも探検でした。電子レンジや洗濯機、電気温水器の説明書を理解しようとする、日本語を学びたいという私の気持ちがあります。強くくなりました。

金谷に行くのに大鉄に乗らなくてはならなかった日のことを覚えています。徳山の小さな駅に着いた時に、券売機はおろか人影も見られませんでした。私は絶望的な気持ちになりました。一人の年輩の女性が道路をほうきで掃いているのを見て、進んでいって助けを求めました。急いで日本語の辞書で調べて自分の置かれた状況を説明しようと思いました。きっと彼女は私のことを頭がおかしいと思えば帰ってしまうのだ

深まりゆく秋に、色づき始めたもみじ
町内 某所にて

ろうと思いましたが、驚いたことに彼女は乗り方を教えてくれ、さらに私に同伴し乗車するホームを教えてくださいました。

これが、私が日本人のもてなしの心を実感した初めての経験でした。

このとき以来、教頭先生やALT担当の先生が手助けをして下さったり、職場の先生方が親切にして下さったり、全く初対面の人が店で洗剤選びを手伝ってくれたり、日本人の親切心があちこちで見られることに驚いています。

日本に来たら、素晴らしい寺院や芸術作品をぜひ見たいと思っていました。私に一番感銘を与え続けてくれてるのはみなさんです。

ここ静岡県に住み、川根本町の思いやりの心にあふれた皆さんと出会える機会を持てたこと、この素晴らしい地域で生活し仕事ができる機会に恵まれたことを幸運だと感じています。日本の風景に見られるお城や寺院がどんなに畏敬の念を抱かせようとも、東京で見られるテイクノロジーやエレクトロニクスがどれほど素晴らしいとも、本当の日本の心や美しさは、人々の中にこそ見いだせるのです。

川根高校レポーター

川根高校 ALT
アマンダ・ショーさん

